

日本学術会議公開シンポジウム

## 法の世界とジェンダー：司法と立法を変えることはできるのか？

日時 2014年2月15日（土） 13時～17時

場所 日本学術会議講堂（入場無料・事前申込み不要）

港区六本木7丁目22-34 東京メトロ千代田線 乃木坂駅出口5・徒歩1分

国際的なジェンダー主流化は、法の世界にも改革をもたらそうとしている。日本の司法や立法は、この要請にどこまで応えられるのか。ジェンダー平等を託す裁判の動向は、司法におけるジェンダー・バイアスに歯止めをかけられるのか。ジェンダー関連の法改正、法学専門教育にジェンダー視点を導入する試みは、どこまで実を結びつつあるのか。司法改革から10年。この間の変化を分析しながら、法の世界をめぐる現状をジェンダー視点から検証する。

### プログラム（13:00～17:00）

開会挨拶・趣旨説明 浅倉むつ子（早稲田大学教授・学術会議会員）

13:05～14:55 報告

- 1 法の世界におけるジェンダー主流化 後藤弘子（千葉大学教授・学術会議会員）
- 2 「女性に対する暴力」と法の世界 戒能民江（お茶の水女子大学名誉教授・学術会議会員）
- 3 婚外子差別をめぐる裁判 榊原富士子（弁護士・早稲田大学教授）
- 4 法科大学院におけるジェンダー法講義の経験から 角田由紀子（弁護士・学術会議特任連携会員）
- 5 ジェンダー法学教育の現状と可能性 二宮周平（立命館大学教授・学術会議連携会員）  
三成美保（奈良女子大学教授・学術会議連携会員）

15:10～15:50 コメント

上野千鶴子（立命館大学教授・学術会議会員）

井上達夫（東京大学教授・学術会議会員）

15:50～17:00 討論

閉会挨拶 井野瀬久美恵（甲南大学教授・学術会議会員）

司会 辻村みよ子（明治大学教授・学術会議会員）

古橋エツ子（花園大学名誉教授・学術会議連携会員）

シンポジウム総括責任者 武田万里子（津田塾大学教授・学術会議連携会員）

紙谷雅子（学習院大学教授・学術会議連携会員）

主催：日本学術会議・法学委員会ジェンダー法分科会

共催 社会学委員会複合領域ジェンダー分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会

後援 ジェンダー法学会、日本社会保障法学会、日本法政学会、民主主義科学者協会法律部会、ジェンダー史学会、日本人権教育研究学会、日本家族〈社会と法〉学会、日本法社会学会、明治大学法科大学院ジェンダー法センター、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター

連絡先メール 武田万里子 [takeda@tsuda.ac.jp](mailto:takeda@tsuda.ac.jp)

紙谷雅子 [masako.kamiya@gakushuin.ac.jp](mailto:masako.kamiya@gakushuin.ac.jp)